

## 仕様書

サーキュラーエコミー部

### 1. 件名

NEDO プロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／次世代低 GWP 冷媒の実用化に向けた高効率冷凍空調技術の開発に係る特別講座

### 2. 目的

NEDO では、2023 年度より「次世代低 GWP 冷媒の実用化に向けた高効率冷凍空調技術の開発」プロジェクト（以下、本プロジェクト）を通じて、冷凍空調分野の温室効果ガス排出抑制に資する高効率性を有する混合冷媒および高い安全性を両立する基盤技術の研究開発を行ってきた。本特別講座は、企業や大学において、プロジェクトの成果を活用し当該の冷媒および機器開発の中心を担う人材を育成し、実用化や普及を加速させ、新たな市場の早期創出に繋げることを目的とする。なお、本特別講座は調査事業と一体で実施されるため、以降は本調査と記載する。

具体的には以下を一体的に実施する。

- 低 GWP 冷媒・機器の研究開発・実装を先導する技術に関する**本プロジェクトおよび関連する国内外技術の調査を実施し、その広報活動・人材育成・人的交流**を通じて、早期の社会実装を橋渡しする。
- ISO/ASHRAE 等の**国際標準化・国際規格化**を見据えた、**国内外の関連産業・学界との連携を強化するための知的基盤**を整備する。

### 3. 業務内容

「次世代低 GWP 冷媒の実用化に向けた高効率冷凍空調技術の開発」では、温室効果ガス排出削減とエネルギー効率向上の両立を図るべく、環境性能と安全性に優れた新冷媒と、それに適合した高性能な冷凍空調機器の開発を推進している。本調査では、当該冷媒技術の社会実装を担う人材の育成を目的とする。また、冷凍空調技術に関連する多様な専門分野の人材との交流を促進することにより、新たな適用分野や用途が創出され、冷媒技術の社会実装を支える人材の裾野が広がるという「好循環」の形成を目指す。具体的には、以下の A～D の取組を一体的に実施する。

#### A：方針策定・情報収集

##### A-1 効果的広報・人的交流・人材育成展開の検討

本プロジェクト成果の社会実装・普及を促す広報手法、評価 K P I の設定

##### A-2 活動方向性検討のための調査

ISO/ASHRAE 等の規格化動向、関連業界トレンドを把握

#### B：成果整理・情報発信

B-1 成果レポート（和・英）作成

2026 年度中に本プロジェクトの中間成果報告書・Web 公開

2028 年度中に本プロジェクトの最終成果報告書・Web 公開

B-2 レポート公開とアクセス記録分析

公開後のアクセス統計を分析<sup>1</sup>

B-3 成果普及のための国際イベント開催

2026～2028 年度のいずれか年度において、国際会議（ハイブリッド形式）を主催<sup>1</sup>

C：会議体運営

C-1 プロジェクト全体会議<sup>2</sup>

C-2 研究開発テーマ別WG<sup>3</sup>

C-1、C-2 とも、運営状況の可視化のための議事録を作成し、  
外部ステークホルダーの意見を本プロジェクトへフィードバック

D：人材育成講座

D-1 HFO 系冷媒を使用した製品開発に係る人材育成講座

2028 年度に年 6～12 回開講

講師：本プロジェクト参画メンバーおよび関連分野有識者

受講対象：企業技術者、政策・施策担当者、学生等

#### 4. 形式・実施期間・予算上限

- 形式：本プロジェクト基本計画に基づく NEDO 調査委託事業（複数年度契約）
- 期間：NEDO が指定する日（2025 年度）から 2029 年 3 月 31 日まで
- 総額：11,260 万円以内（税込）（見込み）

---

<sup>1</sup> 実施期間・年度は、項目 A の進捗を考慮し、NEDO と相談の上決定する。なお、効果的な国際イベントとなるよう学会や業界団体とも協力体制があることが望ましい。

<sup>2</sup> 年 1 回程度の実施が目安。ただし、実施回数は進捗に応じて NEDO と相談の上決定する。

<sup>3</sup> テーマ横断の合同開催の形式も含む。実施回数は進捗に応じ NEDO と相談の上決定する。

## 5. 報告書等

(国際イベント開催を 2027 年度に実施する場合<sup>1</sup>。開催年が異なる場合も下記に準じて作成。)

時期	成果物	仕様
毎年度	年度報告書	電子ファイル (PDF 形式、和・英) <sup>4</sup>
2026 年度	中間成果報告書	電子ファイル (PDF 形式、和・英) <sup>5</sup>
2027 年度	国際イベント報告	実施内容・参加統計・配信記録付 (和・英) <sup>5</sup>
2028 年度	最終成果報告書	電子ファイル (PDF 形式、和・英) <sup>5</sup>
	講座教材・動画資料	電子コンテンツ (和)

## 6. 応募提案書に必ず含める事項

- 業務内容 (A~D) の 詳細計画と達成指標
- 年度別 ガントチャート とリスク管理
- 予算内訳 (年度別・経費区分別)
- 運営体制と意思決定プロセス
- 外部機関 (学会、業界団体、海外機関等) との連携計画
- 技術の社会実装および国際標準化・規格化に資する成果普及戦略と広報戦略イメージ

## 7. その他

- 本プロジェクト内外のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを確保し、実装ニーズを調査報告・講座に反映すること。
- 成果物は原則公開とし、非公開要素がある場合は事前に NEDO と協議すること。
- 国際イベント・講座はオンライン参加を可能とし、アクセシビリティを確保すること。
- 旅費・会場費等の算定は国または NEDO 旅費規程等を参考に妥当性を示すこと。

---

<sup>4</sup> 年度報告書は、電子ファイル (PDF ファイル形式) を所定の期日までに提出。提出方法は、NEDO「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」を準拠のこと。

<sup>5</sup> Web 掲載を実施。具体的な方法については、NEDO と協議の上、決定する。